

につせい農事にゅーす

(第 4 7 7 回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

今年は 7 月の後半から最高気温が平年を大きく上回り猛暑日に近いような日が 8 月上旬まで続きましたが、中旬以降は平年並みの気温で推移する日が多くなりました。一方、降水量は平年の半分以下と極端に少ない状況でした。このことから、8 月は農作物の生育にとっては厳しい気象条件でした。気象予報によれば、9 月は気温が平年より高い一方、降水量は平年並みの確率が高くなっています。9 月は秋冬野菜の定植、生育時期に当たります。この時期に、病害虫の被害を受けると、その後の生育に大きな影響が出ることが懸念されます。気象条件や、農作物の生育を細かにチェックし、早めに対策をとりましょう。

病害虫防除所の 9 月予報では、稲でコブノメイガが多、斑点米カメムシ類がやや多、温州みかんでかいよう病、ミカンハダニが多、黒点病、チャノキイロアザミウマがやや多、中晩柑類でかいよう病がやや多、果樹全般で果樹カメムシ類の飛来数が多い、茶ではクワシロカイガラムシが多い、ねぎでシロイチモジヨトウ、ネギアザミウマが多い、黒斑病・葉枯病がやや多、いちごでハダニ類が多い、ハスモンヨトウがやや多、作物全般でオオタバコガが多い、の情報が出ています。また発生予察注意報第 3 号（果樹カメムシ類）と発生予察特殊報第 1 号（ショウガ褐色しみ病）も発表されました。今月も、水稻、みかん、茶の病害虫防除について 9 月に行う作業を紹介します。

令和 8 年 8 月 2 5 日

気象予報 '26-9

東海地方 3 か月気象予報

名古屋地方気象台

この期間の平均気温は、平年より高い確率が 60% です。降水量は、平年より多い確率が 40% です。

● 月別の予報

9 月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率 60% です。

10 月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率 50% です。

11 月：平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率 50% です。降水量は、平年並または多い確率ともに 40% です。

● 向こう 3 か月の気温、降水量の各段階の確率 (%)

予報の 区分	気温			降水量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3 か月	10%	30%	60%	30%	30%	40%
9 月	10%	30%	60%	30%	40%	30%
10 月	20%	30%	50%	30%	40%	30%
11 月	20%	30%	50%	20%	40%	40%

病虫害発生予察情報(9月予報)

令和 8年 8月 26日
静岡県病虫害防除所長

1 予報概況

作物名	病虫害名	予 報 (9月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
稲	いもち病 (穂いもち)	発生量:少 (発病株率 0.1%)	8月中旬葉いもち発生量:少 (一) 8月中旬穂いもち発生量:少(発生なし)(一) 気象予報 :気 温 : 高い (一) 降水量 : 並か少ない(一)
	紋枯病	発生量:少 (発病株率 11.3%)	8月中旬発生量 :少(発生なし)(一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(一)
	トビイロウンカ	発生量:少 (寄生数 0.6頭/株)	8月中旬発生量 :少(発生なし)(一) 8月の成虫誘殺数:少(誘殺なし)(一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
	斑点米カメムシ類	発生量:やや多	8月中旬発生量 :並 (十) 8月の成虫誘殺数:やや少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
	コブノメイガ	発生量:多 (被害株率 4.9%)	8月中旬発生量: 多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
温州 みかん	かいよう病	発生量:多 (発病度(果)0.1)	8月上中旬発生量: 多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(一)
	黒点病	発生量:やや多 (発病度 2.0)	8月上中旬発生量:やや多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(一)
	ミカンハダニ	発生量:多 (寄生葉率1.7%)	8月上中旬発生量: 多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量:やや多 (寄生果率 0.1%)	8月上中旬発生量: 並 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
中晩柑類	かいよう病	発生量:やや多 (発病度(果) 0.7)	8月上中旬発生量(果): 並 (十) 8月上中旬発生量(葉): 多 (十) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(一)
かき	ハマキムシ類	発生量:やや少 (被害葉率 0.7%)	8月中旬発生量 :少 (一) フェロモントラップ誘殺数:少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
果樹全般	果樹カメムシ類	飛来数:多	予察灯誘殺数:多 (十) フェロモントラップ誘殺数:少 (一) ヒノキ着果量:多 (十) ヒノキ寄生数:多 (十) ヒノキ球果吸汁痕数:少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)
茶	炭疽病	発生量:少 (病葉数23.2葉/1.25㎡)	8月上中旬発生量: 少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(一)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量:並 (叩き落とし虫数 4.9頭/4か所)	8月上中旬発生量: 少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (十) 降水量 : 並か少ない(十)

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均年値)	予 報 の 根 拠
茶	チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量:並 (叩き落とし虫数 1.1頭/4か所)	8月上中旬発生量:少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :並か少ない(+)
	チャノホソガ	発生量:やや少 (巻葉数 0.9葉/1.25㎡)	8月上中旬発生量:少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :並か少ない(+)
	ヨモギエダシャク	発生量:やや少 (叩き落とし虫数 0.1頭/4か所)	8月上中旬発生量:少 (一) 予察灯誘殺数:少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(+)
	カンザワハダニ	発生量:並 (寄生葉率 2.6%)	8月上中旬発生量:少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(+)
	クワシロ カイガラムシ	発生量:多 (寄生株率 1.3%) 発生時期:やや早い	8月上中旬発生量:多 (+) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :並か少ない(+)
ねぎ (白ねぎ)	疫病	発生量:少 (発病株率 0.02%)	8月中旬発生量:少(発生なし) (一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(一)
	黒斑病・葉枯病	発生量:やや多 (発病株率 4.7%)	8月中旬発生量:多 (+) ネギアザミウマ発生量:多 (+) 気象予報 :気 温 :高い (±) 降水量 :並か少ない(一)
	シロイチモジヨトウ	発生量:多 (寄生株率 1.5%)	8月中旬発生量 :多 (+) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(+)
	ネギハモグリバエ	発生量:やや少 (寄生株率 34.0%)	8月中旬発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(+)
	ネギアザミウマ	発生量:多 (寄生株率 8.7%)	8月中旬発生量 :多 (+) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(+)
いちご	炭疽病	発生量:やや少 (10月発病株率 1.9%)	8月上中旬発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(±)
	うどんこ病	発生量:少 (10月発病株率 0.8%)	8月上中旬発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (一) 降水量 :並か少ない(±)
	ハダニ類	発生量:多 (10月寄生株率12.4%)	8月上中旬発生量 :多 (+) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(±)
	アブラムシ類	発生量:やや少 (10月寄生株率4.5%)	8月上中旬発生量 :少 (一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(±)
	ハスモンヨトウ	発生量:やや多 (10月寄生株率 0.8%)	8月上中旬発生量 :多 (+) フェロモントラップ誘殺数:並～やや少(±～一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(±)
作物全般	オオタバコガ	発生量:やや多	フェロモン誘殺数:並～少 (±～一) 気象予報 :気 温 :高い (+) 降水量 :並か少ない(+)

令和8年8月26日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）（図1）
対象作物：かんきつ、落葉果樹（なし、かき、キウイフルーツ等）

1 注意報の内容

- （1）発生が予想される地域： 県内全域
- （2）発生が予想される時期： 8月～10月
- （3）発生程度： 多
- （4）防除時期： 8月～10月

2 注意報発表の根拠

- （1）ヒノキ球果の着果量（指数）は、県平均7.9（平年4.5）と平年より多かった（過去10年で2番目）（図2）。なお、本虫は球果を餌として増殖するため、着果量が多いと新成虫の増殖は助長される。
- （2）8月上中旬のヒノキ球果における本虫の平均寄生数/10結果枝は、17.5頭（平年4.2頭、平年比4.2倍）と平年より多かった（図3a）。なお、8月における寄生数としては本年が1996年以降で過去最多であった（図3b）。また、地域別では、東部で20.8頭、中部で17.0頭、西部で16.1頭と、県内全域で発生が平年より多かった（データ略）。今後、ヒノキで増殖した本虫が球果を吸い尽くすとヒノキから離脱し、果樹園等に大量飛来するとともに果実を加害するおそれがある（図1）。
- （3）県内4か所の予察灯における8月1日～20日の合計誘殺数の平均は、1621頭（平年505頭、平年比3.2倍）と平年より多かった（図4）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが968頭（平年300頭）、ツヤアオカメムシが538頭（平年92.2頭）、クサギカメムシが115頭（平年113頭）であった。現時点で県内における多くの果樹園では本虫の飛来はみられていないが、予察灯への誘殺数が急増していることから、今後、本虫が果樹園等に大量飛来する可能性がある。
- （4）名古屋地方気象台による1か月予報（令和8年8月20日発表）では気温は平年より高く、3か月予報（令和8年7月21日発表）では8月～10月の気温は平年並か高い見込みのため、本虫の発生を助長する。

3 防除方法

- （1）ヒノキ球果での本虫吸汁痕数をもとにした予測式（堤、2003）によるヒノキからの離脱予測日（果樹園への飛来予測日）は、9月3日～5日頃（地域により異なる）と予想される。ただし、吸汁痕数が最も多い地点（東部地域）での飛来予測日は8月26日頃と予想される。
- （2）なお、1か月予報では、気温は平年より高く、本虫の増殖が助長されることにより、ヒノキ球果を予測よりも早期に吸い尽くす可能性がある。これによりヒノキからの離脱が早まり、予測よりも早く果樹園へ大量飛来する可能性もあるため、最大限の警戒を払う。
- （3）静岡県病害虫防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ球果の着果量や球果における寄生数、球果での吸汁痕数、果樹園への秋季以降の飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。
- （4）これら最新情報を確認し、本虫の飛来が予想される場合には、ほ場の見回りをこまめに行う。ほ場で少数でも本虫の発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に、直ちに薬剤防除を行う。また、周辺ほ場への大量飛来がみられた場合、飛来前の予防的な薬剤散布を心掛ける。なお、本虫の移動範囲は広いため、地域での一斉防除が効果的である。また、ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風・暴風雨後の園地では、急激に発生が増加する場合があるので注意する。

- (5) 薬剤防除については、[「静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」](#)を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- (6) 不明な点については、病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。



図1 果樹カメムシ類とその被害果実

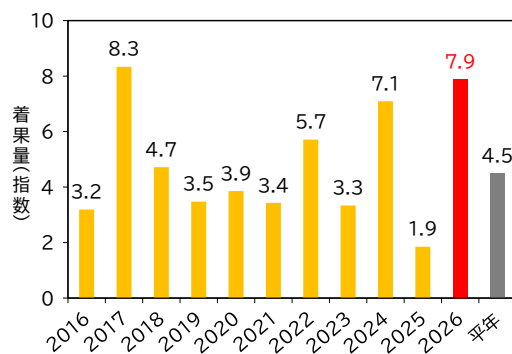


図2 ヒノキ球果の着果量

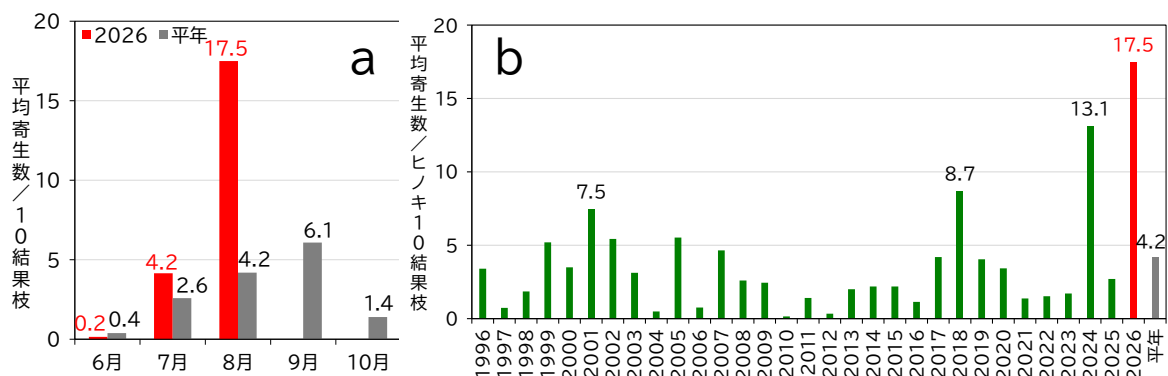


図3 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の寄生数(a: 2026年 b: 年次別(8月))

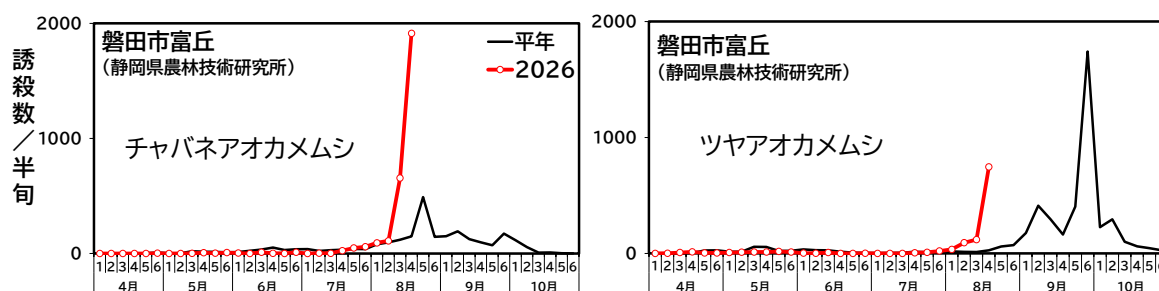


図4 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況(県内4か所のうちの抜粋)

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



令和 8 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

令和 8 年 8 月 26 日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 ショウガ褐色しみ病
病原菌 *Musidium stromaticum* (W. Gams & R.H. Stover) Giraldo López & Crous
- 2 発生作物 葉しょうが (ショウガ科)
- 3 発生経過
 - (1) 県中部の葉しょうが産地において、以前から収穫時に根茎表面の着色、へこみ等の症状により、生産物の廃棄や、商品価値が低下する事例が発生していた。
 - (2) 令和 8 年 3 月、同産地の葉しょうがほ場において、収穫時に同症状の発生が認められた。
 - (3) 当該の根茎から、静岡県農林技術研究所で菌の分離、観察、接種を行ったところ、ショウガ褐色しみ病菌と形態の特徴が類似し、ショウガ根茎切片に腐敗性を示す糸状菌 (図 1) が分離された。分離菌を農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、形態観察、病原性試験、塩基配列解析により、*Musidium stromaticum* と同定された。したがって、本症状は本県未発生のショウガ褐色しみ病と診断された。
- 4 発生状況
本病は、令和元年に高知県で初めて発生が確認され、その後、和歌山県、岡山県で発生が報告されている。
- 5 病徴
 - (1) ショウガの根茎表面に、褐色で円形～不整形の病斑が形成される (図 2)。当県の葉しょうがでは、根茎のへこみや裂開症状からも同菌が高率で分離されている (図 3、4)。
 - (2) 地上部の症状はほとんど認められない場合が多い。
- 6 発生生態
種根茎による病原の持ち込みや、土壌伝染が疑われる。
- 7 防除対策
 - (1) 本ぼ、種根茎ほ場ともに健全な種根茎の確保に努める。
 - (2) 本ぼ、種根茎ほ場ともに定植前に土壌消毒を実施する。
 - (3) 本症状が確認されたほ場で用いた機材は、洗浄、消毒し、健全ほ場への病原の持込みを防止する。



図1 ショウガ褐色しみ病菌の PDA 培地上の菌叢(左) と分生子(右)



図2 根茎に形成された褐色の病斑



図3 根茎のへこみ、裂開症状



図4 発病根茎の外観

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



9月の防除作業 水稻、みかん、茶

<水 稲>

9月は出穂した穂に栄養が貯まる登熟期です。この時期に問題となる病害虫は、穂いもち、紋枯病、トビイロウンカ、斑点米カメムシなどです。いもち病に対する育苗箱処理剤の残効は出穂期頃までなので、それ以降に曇雨天で日照不足が続く場合は、常発地や山間地水田では早めに薬剤散布を行う（**ブラシンフロアブル**）。また前年に紋枯病の発生が見られた水田や、すでに下位葉鞘で病斑が見られる水田では、薬剤散布（**モンカッTFフロアブル**や**バリダシン液剤5**等）を行う。



穂いもち

例年、8月後半からトビイロウンカが本田に侵入、増殖して、9月にかけて被害(坪枯れ)が発生する。葉色が坪状に黄色くなり始めるような症状が出てきてからの防除では遅いので、防除未実施の水田では株元を観察し、トビイロウンカの寄生が確認できれば、速やかに薬剤散布を行う（**トレボン乳剤**、**アルバリン顆粒水溶剤**、**エクシードフロアブル**等）。(斑点米カメムシ類（主にイネカメムシ）も前月には本田に侵入が確認されている。）今後、他のカメムシ類も稲の出穂にあわせて本田に侵入してくるので、ウンカ類との同時防除を行う（**アルバリン顆粒水溶剤**、**トレボン乳剤**、**エクシードフロアブル**、**キラップフロアブル**等）。地域でまとまって薬剤散布すると効果が高い。



トビイロウンカ

<みかん>

黒点病は、風雨により伝染するため、秋雨期は果実への感染時期となる。薬剤散布は25～30日間隔、または累計降雨量250～300mmを目安として行う（**ペンコゼブ水和剤**、**ジマンダイセン水和剤**など）。中晩柑類では、台風がやってくるとかいよう病の発生が懸念される。本病に感染した組織内の病原菌には薬剤の効果はほぼない。そのため発生が見られる園地では感染拡大を防ぐよう降雨前に予防散布を行う（**バリダシン液剤5**、**コサイド3000**など）。

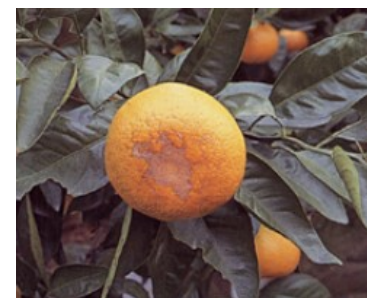


黒点病

チャノキイロアザミウマの加害は果頂部が中心となる。果実肥大期に加害されると、加害部にカルスが形成され、灰褐色の被害となる。成虫飛来盛期に防除すると効果が高いので、病虫害防除所の発表する成虫発生時期の予想情報を参考に薬剤散布を行う

（**ディアナWDG**、**ロディー乳剤**など）。ミカンハダニは9月中旬～10月下旬に密度が高まる。この時期は果実を加害することや天敵の活動があまり期待できないことから、必ず防除を行う

（**スターマイトフロアブル**、**ダニエモンフロアブル**、**ダニゲッターフロアブル**など）。



チャノキイロアザミウマ
被害（果頂部）

< 茶 >

9月は秋芽を製茶するために摘採する茶園と、そのまま刈り捨てる茶園がある。秋芽を製茶する茶園では、病虫害の発生状況に応じた防除を行う。一方、刈り捨てる茶園では刈り捨てた後に残る葉を守るための必要最低限の防除を行う。

秋芽を摘採する茶園では、新芽害虫のウンカ、スリップス、チャノホソガの発生が目立つようであれば、薬剤防除を行う。ウンカ、スリップスにはハチハチ乳剤が有効である。この時期、ヨモギエダシャクやチャノホソガの発生が多くみられる。マッチ乳剤又はフェニックスフロアブルを早めに散布する。ハダニの発生がみられる場合は、アグリメックを混用するとよい。チャノホコリダニにも効果がある。病害では、雨が続くようであれば炭疽病の感染が心配される。台風や熱帯低気圧の影響で雨が数日続くようなことがあれば、事前にダコニール1000やフロレンサイドSC等の予防効果の高い薬剤を、降雨後ではスコア顆粒水和剤やインダーフロアブル等の治療効果の高い薬剤で防除を行う。赤焼病の発生が心配される幼木園や本病に弱い品種等では、強風通過後、初発を見たら銅を含む殺菌剤を早めに散布する。

摘採まで日数が少ないので、薬剤の使用時期を確認して、薬剤を選択する。



カンザワハダニ



チャノミドリヒメヨコバイ



炭疽病

今月の防除(令和8年9月)

作物	時期	病害虫	使用薬剤	使用法	使用基準	備 考
稲 中手品種 晩生品種	上～下	穂いもち・紋枯病 ごま葉枯病・ 穂枯れ・ ウンカ類・ヨコバイ・ 斑点米カメムシ類	ブラシントレバリダ水和剤 又は ブラシントレバリダ粉剤DL 害虫3種には アルバリン粒剤 病害のみや害虫のみ の場合は備考欄参照	500倍 3Kg/10a (カメムシには 4Kg/10a) 3Kg/10a	14 日-2 14 日-2 7 日-3	○病害のみでは ブラシンフロアブル ○ウンカ・カメムシのみでは トレボン乳剤 アルバリン粉剤DL キラップフロアブル アルバリン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 トレボン乳剤
イチゴ	上～下	炭疽病 うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ ミカンキイロアザミウ コナジラミ類	オーソサイド水和剤80又は アントラコール顆粒水和剤 サンヨール 又は アミスター20フロアブル アドマイヤー1粒剤又は ベストガード粒剤 スターマイトフロアブル アタブロン乳剤 マラソン乳剤又は コテツフロアブル モスピラン粒剤	800倍 500倍 1,000倍 2,000倍 0.5g/株 1g/株 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 1g/株	14日-5 仮植栽培期-6 前日-6 前日-8 定植時-1 定植時-1 前日-2 前日-3 3日-5 前日-2 定植時-1	散布回数: 苗床4回、本圃3回以内 本圃土壌混和1回 植穴土壌混和する 植穴土壌混和する 植穴土壌混和する
茶	秋芽 萌芽期	炭疽病・もち病・ 褐色円星病 ウンカ・スリップス チャノホソガ	スコア顆粒水和剤又は インダーフロアブル ハチハチ乳剤 マッチ乳剤	2,000倍 5,000倍 1,000倍 2,000倍	7 日-2 7 日-2 14 日-1 7 日-1	ハチハチ乳剤はチャノホコリダニ、 チャノナガサビダニにも効果あり。
	生育期	カンザワハダニ チャノホコリダニ チャノナガサビダニ	アグリメック 又は ミルベノック乳剤	1,000倍 1,000倍	7 日-1 7 日-1	スターマイトフロアブル2000倍 (7日-1)もカンザワハダニや チャノホコリダニにも可。
温州 みかん	中	黒点病 褐色腐敗病 ミカンハダニ 及び ミカンサビダニ チャノキイロアザミウマ カメムシ類 及び ハマキムシ類	ジマンダイセン水和剤 又はペンコゼブ水和剤 ランマンフロアブル又は レーバスフロアブル スターマイトプラス又は ダニエモンフロアブル テルスター水和剤 ロディー乳剤	600倍 600倍 2,000倍 2,000倍 1,000倍 4,000倍 1,000倍 2,000倍	30 日-4 30 日-4 前日-3 前日-3 7 日-1 7 日-1 前日-3 7 日-4	ナティーボフロアブル1500倍 (前日-3)も可。 ストロビードライフロアブル 2000倍(14日-3)も可。 ダニゲッターフロアブル2000倍 (前日-1)も可。 カメムシ類にも有効 チャノキイロアザミウマにも有効
中晩柑類	上～下	かいよう病 ミカンハダニ カイガラムシ類	バリダシン液剤5 ダニエモンフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 又は アブロードエース フロアブル	500倍 4,000倍 2,000倍 1,000倍	7 日-4 7 日-1 14 日-3 45 日-2	コサイド3000(クレフノン加用)も可 マイトコーネフロアブル1000倍 (7日-1)もミカンハダニに可。

*使用前には、ラベルをよく読み、登録内容に沿って使用してください。